

1. 評価結果概要表

作成日 平成 19年 4月 20日

【評価実施概要】

事業所番号	1271202002		
法人名	生活介護サービス株式会社		
事業所名	グループホーム さざんか		
所在地	千葉県松戸市幸田2-140 (電話)047-374-5315		
評価機関名	特定非営利活動法人 日本高齢者介護協会		
所在地	東京都文京区本駒込3-15-10		
訪問調査日	平成19年3月19日	評価確定日	4月20日

【情報提供票より】 (19年2月25日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 16年 4月 1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	17 人	常勤	12人, 非常勤 5人, 常勤換算 14.3人

(2) 建物概要

建物構造	軽量鉄骨造り		
	2階建て	1階 ~	2階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	70,000 円	その他の経費(月額)	15,000 円	
敷金	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(300,000円)	有りの場合 償却の有無	有	
食材料費	朝食	525 円	昼食	525 円
	夕食	525 円	おやつ	食事代込み
	または1日当たり 円			

(4) 利用者の概要 (2月 25日現在)

利用者人数	17名	男性	3名	女性	14名
要介護1	3名	要介護2	2名		
要介護3	7名	要介護4	4名		
要介護5	1名	要支援2	0名		
年齢	平均 84.4歳	最低	70歳	最高	96歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	いらはら診療所、我孫子中央歯科
---------	-----------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

1. 「介護の中に生活の視点を入れる」という法人の企業理念を基に作り上げた、“その人らしい、役割のある生活を支援する”という事業所独自の理念を、職員全員が共有しつつ、明るい笑顔で日々の介護に励んでいます。
2. 診療所を母体として起業されたホームであるため、緊密な連携の下に利用者は健康面、医療面で安心・安全が相対的に担保されています。
3. 利用者家族、ホーム、地域住民、行政を構成メンバーとする外部に開かれた運営推進会議の定期的開催を通して、自己評価や外部評価等を話し合い、そこでの意見をホームの運営に活かしていく体制作りに取り組み始めています。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)
	1. ホーム便りの発行(地域への回覧) 2. 家族会開催 3. 玄関の無施錠状態の実現 4. 注意の必要な物品の保管・管理 上記4項目すべて改善されています。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	運営者、管理者、その他の職員が全員で自己評価の意義を理解し、今回の自己評価に取り組んでいます。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	3月10日に第1回運営推進会議が開催され、設立目的等が中心議題でした。今後、2ヶ月毎に開催される運営推進会議において自己評価や外部評価等について話し合いを行って、そこでの意見等をホームの運営に反映させることが望まれます。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	各利用者の家族へ本人の近況報告書や年4回の四季ホーム便りを郵送しています。家族会も年2回行われていますが、今後開催される運営推進会議においてもそうした意見等が述べやすい雰囲気作りに取り組むことが望まれます。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	これまで町内会の盆踊りや小学校の祭りに参加し、地域と交流していますが、まだ自治会には加入していません。地域に対し、ホームの役割と理解を浸透させるためにも、四季のホーム便りや、ホームの行事等の案内を自治会に回覧をお願いしたり、また自治会の敬老会等の行事に参加したりして相互に交流することが期待されます。

2. 評価結果（詳細）

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期 待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「一人ひとりのニーズに合った、役割のある生活を支援する」という事業所独自の理念をつくり上げています。	○	”地域の中で暮らすことを支える”ことを理念として組み入れることの検討を期待します。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	月1回のケア会議において介護全般の情報を確認、共有し、さらに理念に適ったものかどうかを検証して、日々の介護に活かしています。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内会の盆踊りや小学校の祭りに利用者と積極的に参加していますが、自治会にはまだ加入していません。	○	自治会に加入し、ホームの役割と理解を地域に浸透させるため自治会の敬老会等の行事に参加していくことが望まれます。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	運営者、管理者、その他の職員がそうした評価の意義を理解し、評価に基づく改善に全員で取り組んでいます。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	3月10日第1回運営推進会議が設立、開催されました。討議内容は設立目的等が中心議題で、サービスの実際や評価の問題について討議する段階にまで至っていません。	○	今後運営推進会議を2ヶ月に1回開催して、評価に基づくサービス向上の取り組みを含めて多面的な問題を話し合い、そこでの意見をホームの運営に反映させることが望まれます。
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	介護相談員担当者会議を定期的にかけて意見交換等を行っています。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	各利用者家族へ月1回本人の近況報告(現金出納帳を含めて)や四季のホーム便りを郵送しています。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱の設置や年2回家族会の開催を行っていますが、外部へ意見等を表すまでに至っていません。	○	今後定期的に行われる運営推進会議においても、家族等が意見が表わせるように取り組むことが望まれます。
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	常勤者が各フロアで固定勤務となるよう配置されています。異動や離職でやむを得ず職員が交代する場合には、利用者のショックが生じないような工夫がなされています。		


外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内で職員のニーズに合った研修や勉強会を実施しています。また社外研修についても費用の援助をするなど受講し易い体制となっています。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	界限(柏市に及ぶ)のグループホームやデイサービス施設との相互交流(相互訪問見学、利用者同志への拡大交流)を実施しています。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	本人やご家族にホームを見学してもらうことから始め、職員が自宅に出向いたり、ホームに来られた折にはお茶を一緒に頂きながら、職員や利用者を紹介したり、生活の様子を見ていただいたり、説明する等を繰り返していきながら慣れていただくように配慮しています。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は利用者を人生の大先輩という事を常に意識し共有しています。男性と女性が昼食の野菜を刻んでいるなど、経験を活かしたり、得意分野での力を発揮できるように職員と利用者はお互いに協働しながら一緒に過ごす場面作りや声かけをしています。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者一人ひとりの視点に立った暮らしの継続性をいかに確保するか、生活全体を視野に入れ、認知症高齢者の課題に対応するために日常生活を24時間の時間軸に添ってアセスメントをして把握する手法に取り組んでいます。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	ケア会議の参加者は職員のみですが、医師や薬剤師からは事前に注意点を、ご家族には予め要望を伺っています。状態の著しい変化時はその都度会議を行いケアの統一を図っています。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	状態の変化に合わせて介護計画の見直しも都度行っています。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	2階の利用者の半数が風邪の発熱でベッドに休まれていましたが、母体が医療法人でもあり、医療の連携体制を活かし、医療処置を受けながらの生活の継続ができています。利用者やご家族の負担となる受診や入院が回避された事例は何度もあります。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	母体が医療機関であり、24時間体制、月2回の往診があります。何時でも相談、助言、指示が受けられます。調査当日発熱者が出て往診を依頼し、医師の診察が行われていました。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	主治医・看護師・家族・職員との連携を密にして支えています。腎臓病の利用者が一時重篤な状態になったときに医師・職員・ご家族との話し合いが繰り返し行われ、結果として治療は行われませんでした。最期はホームでのご家族は望まれています。現在までホームでの看取りの事例はありません。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	排泄の誘導、介助は他の利用者に気づかれないように、さりげなく行なわれています。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	無理じいはせず、本人のペースで支援しています。時間をかけ、職員を変え、声かけの仕方などして工夫しています。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食材選び、調理、盛り付け、片付けなど利用者個々の力を引き出しながら職員と一緒にを行っています。利用者と一緒に調理をし、食事も職員も同じテーブルで同じ物を楽しみながら食べています。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	本人の希望で、毎日入る方、夕食後に入る方などさまざま、本人の体調を考慮して臨機応変に対応しています。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	散歩の好きな方は散歩に出かけ、途中で挨拶した方が独居の高齢者だったりすると話しこんだり、お花を見ていって声をかけられたりします。行事のある時は招待状を出すなど地域の高齢者との顔見知りが増えてきています。食事作りや習字の上手な方等利用者の経験や知恵を発揮できる場面を作っています。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	各ユニット、2日に1度買出し、近所へ散歩、無人販売機での野菜の購入などで外出は頻繁にあります。可能な限り要望時には断らずに出かけるようにしています。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	2階は職員の手薄になる時間には短時間ですが施錠している時間帯もあります。日中は鍵はかけていません。1階は玄関センサーが設置されていますが、過信しないように心がけています。常に所在確認を行っています。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年1回の消防訓練を行っています。昨年は夜間を想定して2階の滑り台を使って避難訓練を行いました。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	その人に合った水分確保しやすい形の食べ物で水分補給をしています。食べ物がうまく摂取できない方には栄養補助食品を医師の指示のもと補うようにしています。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	家庭的な温もりのある雰囲気が感じられるような、また幼稚すぎないような装飾が施されています。廊下や通路の壁には油絵や行事の写真などが貼られ、リビングには四季の花が活けられています。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居の際の持ち物として筆筒や写真・仏壇など馴染みのものを持ち込んだり、ランの鉢植えが置いてあるなど安心した個室の空間になっています。		

※  は、重点項目。

※ WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票（様式1）を添付すること。